

九州大学 教育学部 | 大学院 人間環境学府 教育システム専攻
田北雅裕研究室（教育デザイン論研究室）Q&A

田北雅裕

専任講師・社会福祉士

web : <https://trivia.gr.jp>



Q1. 「教育デザイン論」とはどういった学問なのでしょうか

「デザイン」とは、伝えるべきことを適切に伝えたり、感じてもらったりするための表現手段であると同時に、社会課題を見定め、乗り越えていくための技術や思考そのものです。「教育デザイン論 Designing Education for Diverse Contexts」では、以上のような「デザイン」の中でも「コミュニケーション・デザイン」や「サービス・デザイン」の技術や思考、そして教育学の中で蓄積されてきた理論を基礎としながら、主として教育や福祉の現場の課題について、様々な立場の人たちと協働し、乗り越えていくための方法を追究しています。それはある面で、理論をいかに日々の実践へと接続していくか、その理論と実践との間をつなぐ表現や仕組み、人としてのあり方を学ぶ学問とも言えます。

Q2. どうして「教育デザイン論」が必要とされているのでしょうか

近年、複雑で解決が難しい社会課題が多々見られるようになりました。例えば学校現場においても、学校だけでなく地域の様々な人たちと共に知恵を出し合い、協力していける実現可能な仕組みがないと乗り越えられない課題が出てきています。その中で、他者と協働しながら適切な課題を見定め、乗り越えていく知恵や方法が必要とされていて、その手がかりとして「デザイン」の技術や思考が求められています。

一方で、消費者やユーザーの行動変容を目的としてきたデザイン技術/思考を、企業活動の文脈だけでなく、市民の権利と意思が前提となる地域社会の中でいかに実践していくのか、その論理が必要とされています。教育学は「教育」という裾野の広い営為の中で、人間形成や行動変容の相応しいあり方や場について、長らく追究してきた学問です。そうした教育学的姿勢に立脚しながら、デザインの技術/思考と向き合い、現代社会に相応しい課題を乗り越えていくための視座やシステムを追究する領域が「教育デザイン論」です。

Q3. 研究室の今までの研究やプロジェクトについて教えてください

行政を中心とした公的セクターが担う教育や福祉の現場に「コミュニケーション・デザイン」が行き届いていない現実があります。例えば、予算が用意しやすい民間企業のウェブサイトはデザインされているにもかかわらず、児童相談所のウェブサイトはなかなかデザインされていません。同じ福祉の領域でも、利用契約制度が浸透してきた高齢者福祉分野よりも、措置制度

を基調とした児童福祉分野にデザインが行き届きにくい現実もあります。そうした構造的な問題の解決を目指し、デザインを施すためのプロジェクトに取り組んできました。その他、様々な人たちと協働しながら、教育や福祉分野を中心とした社会課題を乗り越えていくための「まちづくり」の実践と研究に取り組んできました。詳しくはプロフィールサイトをご覧ください <https://trivia.gr.jp>。

Q4. 今までの学生が書いた卒業論文や修士論文を教えてください

以下が今までの卒業生が書いた論文です。

▼2021 年度

▽卒業論文

- CFMI 養成センターの授業内容にみる音楽アウトリーチ活動教育の特質
- 児童養護施設退所児童における他主体との関わりに関する一考察
 - ―在所時における関わりに着目して―
- 温泉観光地における関係人口の持続に関する一考察
 - ―地域おこし協力隊を経て定住した元隊員の語りから―
- 地域の写真店における写真を介したコミュニケーションの変容
 - ―フィルムカメラからデジタルカメラへの移行に着目して―

▼2020 年度

▽卒業論文

- 商店街活性化における商店街と高校生の協働の在り方
- 熊本県杖立温泉街における廃校の価値に関する一考察
- 放課後児童クラブにおける宿題の意味に関する考察
- 学習塾における大学生チューターと生徒との関係性にかかる一考察
 - ―映像授業を用いた学習塾に着目して―
- 夜間保育所における食の役割

▼2019 年度

▽卒業論文

- 国内における社会的養護出身者による当事者活動の実際
- 市民参加演劇における脚本および演出の生成過程に関する研究
 - ―古賀市・劇団 DAICOON に着目して―

▽修士論文

- 地域運動会に求められる機能に関する一考察―未来の山口の運動会に着目して―

▼2018 年度

▽卒業論文

- 水害常襲地域の減災力を探る—熊本県杖立温泉地域に着目して—
- セックスワーカーを支える当事者コミュニティに関する一考察
- 子ども支援に関わる学生ボランティアの教育的意義に関する一考察

▽修士論文

- ワークショップにおける KJ 法の意義に関する研究 —図解の生成過程に着目して—

▼2017 年度

▽卒業論文

- 東日本大震災の被災地における学校支援に関する研究—岩手県大槌町を事例として—
- 廃校を創業支援施設に利活用する意義
- 通学区域制度が地域に与える影響—福岡県の通学区域制度に着目して—
- 国内におけるギフテッドを対象とした学校教育システムに関する一考察
- 性風俗産業における従事体験の意味づけ—当事者が語るライフストーリーに着目して—
- 短期入所生活援助事業における養育里親の活用に関する一考察

▽修士論文

- 運動部活の社会体育移行における意義と課題に関する一考察
—熊本県における小学校運動部活を対象として—

▼2016 年度

▽卒業論文

- 社会的孤立の解消における子ども食堂の役割 —ひとり親家庭に着目して—
- 不登校からフリースクールへの接続に関する研究
- 国内におけるアーティスト・イン・レジデンスの意義に関する研究
- 学生と高齢者による異世代ホームシェアの非経済的側面の意義に関する研究

▼2015 年度

▽卒業論文

- 九州ツーリズム大学と住民の関わりに関する一考察
- 学校制服の現代的意味を探る —高等学校における制服の改定に着目して—
- 国内大学におけるデザイン思考教育の実際
- 開放制の教員養成に基づいた一般大学における卒業生ネットワークの意義
- 家族アルバムが担う役割

▽修士論文

- 駅前を対象とした路上駐輪の動機と原因の分析
- 過疎地域における廃校の活用可能性に関する研究

▼2014 年度

▽卒業論文

- 里親への関心から登録に至るまでの心理的プロセスに関する一考察
- 母子生活支援施設におけるアフターケアの現状と可能性
- 観光地における〈ファン登録制度〉の現状と課題

▽修士論文

- JR に求められる安全性に関する一考察 —鉄道利用者の安全に対する意識に着目して—
- 「お気に入りの場所」の指摘から見ると九大箱崎キャンパスの感性的価値に関する考察
- 一般誌における「リノベーション」の概念の把握及び価値の体系化
- 福岡県における図書館のアウトリーチ活動の現状と課題
- ウェブサイトを活用した神社の広報に関する一考察 —氏子および崇敬者との関係づくりに着目して—
- 福岡市における事業者連携見守り事業の現状と事業者の選定に関する一考察
- 街区公園を媒介とした新旧住民による一体的自治活動の提案 —行政区画や居住空間の隔たりを越えて—

▼2013 年度

▽卒業論文

- 生涯学習パスポートの活用可能性に関する一考察
- 廃校活用の検討プロセスにおける地域住民の関わりがその後の施設運用に及ぼす影響
- 児童との交流に着目した小学校内における地域住民の居場所に関する研究
- 地域コーディネーターの在り方に関する一考察 —福岡市の道徳教育推進事業に設置された地域コーディネーターに着目して—
- 留学修了生から見た山村留学の意味性に関する研究

▼2012 年度

▽卒業論文

- 「思い出」に着目した運動会の在り方に関する一考察
- 福岡市における市立学校の ICT 支援の実態と課題
—情報コーディネータ委嘱事業に着目して—
- 東日本大震災の教訓を踏まえた「学校防災マニュアル」のあり方
—糸島市波多江小学校を事例に—

▽修士論文

- 沖縄県北谷町における防災の取り組みに関する研究 —自主防災組織を切り口に—

Q5. 研究室ではこういった活動があるのでしょうか

研究室では、「研究（論文）」と「プロジェクト（PJ）」のふたつに取り組みます。学生自身が、普段の生活や教育現場から「問い」を探しだし追究していく「論文ゼミ（卒業論文および修士論文が対象）」を週1回程度、開催しています。そして、研究室のメンバーだけでなく、他学部の学生や行政、企業、NPO等様々な人たちとともに取り組む「プロジェクト」は、社会の課題を解決していく「まちづくり」の実践です。その実践がチームに分かれて常時複数動いています。普段はチーム毎にグループウェアで情報を共有し、研究室メンバー以外でも参加可能な「PJ 報告会」を月に1回開いて、全てのプロジェクトについて意見交換をしています。

Q6. 「まちづくり」とはどういう意味ですか？

「まちづくり」は、1960年代後半から、官主導の「都市計画」に代わる市民参加を目指した概念として主に使われていましたが、現在では、教育や福祉、観光、地域振興など、分野を問わず、地域の課題を乗り越えていく営みに用いられる言葉です。田北研究室では、市民（当事者）の目線から社会の課題を捉え、専門分野や制度的な立場にとらわれずに、他者と協働しながら課題を乗り越えていく営為を目指すこと、そして社会的に弱い立場にいる人たちが、困難を抱えたり孤立したりしない状況をつくっていく（= 関係をまちにひらいていく）ことを大切にしたいと考えています。以上のような思いから、まちづくりを『社会的に孤立している人の関係や事象を、地域社会という中間領域にひらき、支えること。また、居合わせた人たちと共に、日々の暮らしの課題を乗り越え、次の世代に希望をつないでいく実践』と定義し、デザインの技術や思考を活用しながら、その実践に取り組んでいます。

Q7. 他大学の学生、社会人も大学院で受け入れていますか？

はい。ただし、田北研究室（大学院）への進学を希望する場合は、必ず受験をする前に連絡をしてください。本研究室がふさわしいかどうか一緒に検討した上で受験を判断しましょう。大学院は「人間環境学府教育システム専攻」となります。ウェブサイトはこちらです <http://www.hues.kyushu-u.ac.jp/education/department/education.html>。大学院に進学するだけでなく、研究生や科目等履修生などの選択もあります。入試情報も含め、手続きなどは、こちらのページを参考にしてください <http://www.hues.kyushu-u.ac.jp/education/admission/>。

Q8. 高校生へのメッセージをお願いします

高校までは、答えが用意された「問い」に対して、素早く答えを導き出すことが求められがちですが、これからは、答えの見つかっていない「問い」を自ら探し出し、それを多様な人たちと協働しながら解いていく力が要求されます。その力は、学校の中ではなくその外に広

がった世界 (=まち) の中に飛び込んで始めて培われる力です。大学は、今まで自分が出会ったことがない広い世界と可能性に接続できる場であり、その「問い」と出会うための眼差しや手がかりを修得する場と言えます。「問い」のきっかけになる些細な違和感を手放さずに、失敗を恐れず、様々なことに挑戦してみましょう。